

■重森三玲 作家、日本庭園史の研究者。モダンな日本庭園の傑作を多数遺した。

しげもりみれい

白馬会・・・1896＝

岡山県上房郡賀陽町吉川村で、地主農家重森元治郎・つるのの長男に生まれる。計夫(かずお)と命名。

豪溪と呼ばれる水墨山水画の世界を思わせる溪谷地帯のある地で、妹が四人という一人息子として、両親から可愛がられ、木彫りや建築を嗜む趣味人の父の影響を受けて育ち、

田中正造直訴1901＝ 5歳：この頃から茶(不昧流)と花(池坊)を習う。

日露戦争終・・・1905＝ 9歳：

明治天皇没・・・1912＝16歳：

第一次大戦始1914＝18歳：早くも、生家の茶室「天籟庵」を設計、

21ヶ条要求・・・1915＝19歳：父が中心となって施工して、完成。

ロシア革命・・・1917＝21歳：画家を志して上京し、日本美術学校に入学。日本画と美術史を専攻するが、全国から集まる才能に意気消沈、いけばなと茶道を習い稽古に励む。

ベルリン条約・・・1919＝23歳：本科を卒業。研究科に進学するとともに、東洋大学文学部で東西の哲学や仏教史を聴講。

大暴落・・・1920＝24歳：修了すると、美術評論で身を立てることを志すとともに、

原敬首相暗殺1921＝25歳：

水平社結成・・・1922＝26歳：同志と、日本文化を総合的に学ぶ{文化大学院}を創立し、通信制で講座を始める。

関東大震災・・・1923＝27歳：越智マツエ(のち鈴子と改名)と結婚、長男完途(カント)が誕生。大震災に{文化大学院}は頓挫し帰郷。農業に従事しながら、哲学講座など開催。氏神の吉川八幡宮が優れた古建築と気づき、保存に尽力、

治安維持法・・・1925＝29歳：*調査のために来訪する関根貞博士をもてなそうと、生家の庭を改造し、庭園「天籟庵」を完成、処女作となり、戸籍上も三玲と改名。吉川八幡宮は、のちに特別保護建造物(重要文化財)に指定される。
“三玲”の名は、フランスの画家ミレーにちなんで雅号として使っていたが、出家すれば戸籍を抹消できることを知り、一度出家し再び入籍して改名。子供たちにもヨーロッパの偉人に因んで名前をつける。

円本時代始・・・1926＝30歳：次男弘淹(コーエン)が誕生。

世界恐慌・・・1929＝33歳：

友人宅に「西谷邸庭園」を造った後、京都に移住。華道関係が仕事も多く、「日本花道美術全集」刊行開始。古美術写真の草分けで庭園にも造詣の深い中野楚溪と知合い、彼の主催する{中野芸術院}で庭園講座を受け持ったことから、庭園研究が始まる。

海軍軍縮条約1930＝34歳：長女由郷(ユーゴー)が誕生。

満州事変・・・1931＝35歳：

五一五事件・・・1932＝36歳：「日本花道美術全集」全9巻完結。中野らと日本庭園の研究団体(京都林泉協会)を設立。
国際連盟脱退1933＝37歳：{日本新興いけばな協会}の創設を構想し、勅使河原着風・中山文甫らとともに「新興いけばな宣言」を起草(後に発表)。中野の企画の一巻として、初の庭の著書「京都美術大観庭園」刊行。

帝人疑獄事件1934＝38歳：「茶室・茶庭」「日本茶道史」刊行。春日大社「貴賓館庭園」。室戸台風のため京都の庭園が被害を受けたのを見て、研究や修復に役立てるべく、全国の庭園を実測調査することを決意、

芥川直木賞始1935＝39歳：三男??(ゲーテ)が誕生。{京都林泉協会}の会報月刊誌{林泉}創刊(戦中・戦後は一時休刊)。

二二六事件・・・1936＝40歳：全国庭園の第一回実測調査を開始し、結果を逐次「日本庭園史図鑑」として刊行開始、

日中戦争始・・・1937＝41歳：

健保+総動員・・・1938＝42歳：四男貝需(バイロン)が誕生。全国500箇所さまざまな時代の名庭実測、古庭園の調査を終了。

第二次大戦始1939＝43歳：*「日本庭園史図鑑」26巻を上梓して日本庭園史研究を先駆。東福寺の執事長爾以三から東福寺全山の風致計画を依頼され、まず方丈「八相の庭」を作庭、以後、光明院「波心庭」など東福寺全般について作庭し、

日米開戦・・・1941＝45歳：

・・・1942＝46歳：初のエッセイ風庭園論「庭の美」刊行。

創価学会検挙1943＝47歳：京都市左京区吉田上大路町に転居、終生の居を定める。(重森三玲庭園美術館)

敗戦・・・1945＝49歳：

新憲法公布・・・1946＝50歳：「枯山水」刊行。

極東裁判決・・・1948＝52歳：共著で「花道全集」「図鑑花道集」刊行開始、

三大事件・・・1949＝53歳：前衛いけばなの創作研究グループ{白東社}を自邸で開催し、雑誌{いけばな藝術}を創刊。

朝鮮戦争始・・・1950＝54歳：「花道全集」全9巻、「図鑑花道集」全7巻完結。

独立回復・・・1951＝55歳：高野山の「西禅院庭園」以降、

メーデー事件・・・1952＝56歳：第一回白東社展を開催。高野山「正智院庭園」、石清水八幡宮「書院前庭」

TV放送始・・・1953＝57歳：大作岸和田城「八陣の庭」を造り、自邸に茶室「無字庵」建立。

自衛隊発足・・・1954＝58歳：自邸で第一回の初釜を行い、以降、毎年開催。

55年体制始・・・1955＝59歳：雑誌{いけばな藝術}廃刊。

国連加盟・・・1956＝60歳：瑞応院「二十五菩薩来迎の庭」。東福寺光明院「羅月庵」茶席、露地。

なべ底不況・・・1957＝61歳：「光明禅寺庭園」。イサム・ノグチと交流、同氏設計のパリのユネスコ本部庭園に協力する。

インスタント・・・1958＝62歳：「サントリー一元川崎工場庭園」。

美智子妃・・・1959＝63歳：「小河邸庭園」(第一期)。

安保闘争・・・1960＝64歳：

タイタイ病始・・・1961＝65歳：京都林泉協会設立30周年記念に、大徳寺瑞峯院「独坐庭」「閑眠庭」を作庭し奉納。

全国総合計画1962＝66歳：「志度寺無染庭及び曲水庭」、香里団地「以楽苑」。

TV宇宙中継始1963＝67歳：四天王寺学園「校門前庭園」。興禅寺「看雲の庭」。

東京オリンピック・・・1964＝68歳：*東福寺龍吟庵「不離の庭」「龍門の庭」まで、8寺院に13庭を造り、全てが傑作となる。初の作品集「庭 重森三玲作品集」刊行。

大学紛争始・・・1965＝69歳：「北野美術館庭園」。増補版「枯山水」刊行。

いざなぎ景気1966＝70歳：篠山市「住吉神社住之江の庭」、

震ヶ関ビル・・・1968＝72歳：「庭～こころとかたち」刊行、

全共闘・・・1969＝73歳：「日本の名園」刊行。友琳会館「友琳の庭」。「漢陽寺庭園」(第一期)。自邸に書院風の茶席「好刻庵」を建立し、処女作「天籟庵」を移築、露地を新造(重森三玲邸庭園)。

大阪万博・・・1970＝74歳：自邸でガラス一式の茶会を催す。自邸の「書院前庭」を大規模改修。

ドルショック・・・1971＝75歳：「霊雲院庭園」。長男完途とともに第二回実測調査を開始。桂離宮、修学院離宮など約百三十庭を調査・実測。平行して長男完途と共著で「日本庭園史大系」の刊行開始。

日中国交回復1972＝76歳：京都林泉協会設立四十周年記念に、石像寺「四神相応の庭」・豊國神社「秀石庭」を作庭し奉納。

石油ショック1973＝77歳：高野山「福智院庭園」。泉涌寺「練成道場前庭園」。長年にわたる労作「茶室茶庭事典」が完成。

角栄金脈辞任1974＝78歳：松尾大社に「曲水の庭」と、集大成となる「上古の庭」を絶作として、

クアランゴール事件1975＝79歳：*没した。没後直ぐに、「日本の庭(名園・作庭・素材編)」「庭神々へのアプローチ重森三玲作品集」「続実測図日本の名園」が刊行され、「日本庭園史大系」全35巻も完結する。

太陽の地図帖「重森三玲の庭案内」、